

「大学入学時奨学金」に関するアンケート調査の結果

(調査目的)

学ぶ意欲と能力のある子どもに教育の機会を確保し、貧困の連鎖を防止するとともに、若者の県内定着を目的とし、平成28年度から「大学入学時奨学金」の貸付事業を実施しているところだが、事業内容について検討するに当たり、県内の高等学校（県立・私立）及び特別支援学校（高等部のある学校）を対象としたアンケート調査を実施した。

(対象)

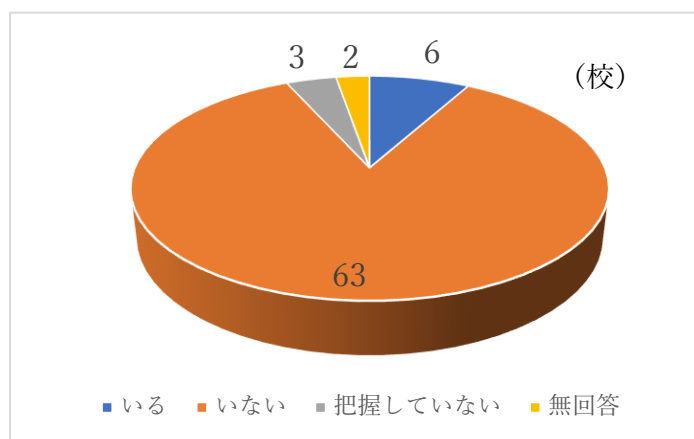
高等学校 86 校（高等学校 76 校、特別支援学校（高等部） 10 校）

(回答数)

74 校（回答率 86.0%）

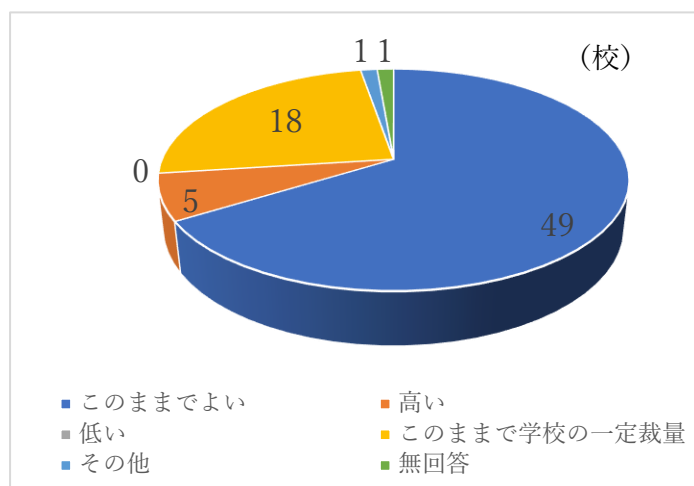
(調査結果)

1 成績基準を満たせなかったため、活用できなかった生徒について



- ・「いる」と回答した高等学校は 6 校 (8.1%) で、計 7 名の生徒が成績基準を満たせなかったため、活用できなかったことが分かった。
- ・各学校 1 名ほどだが、3 名と回答した高等学校もあった。

2 成績基準を「大学出願用調査書の全体評定平均値 4.0 以上」と設定していることについて



- ・「高い」と回答した高等学校は 5 校 (6.8%)、「このままで学校に一定の裁量が認められてもよい」と回答した高等学校は 18 校 (24.3%) であり、合わせて約 3 割の高等学校で現在の成績基準に見直しを求める意見があった。

大学入学時奨学金に対する意見

【制度について】

- ・保護者の経済的困難を理由に「貸与」するのならば、公務員に就労した場合でも免除の対象にするべき。
- ・日本学生支援機構との兼ね合いから、希望者がいない。例えば、給付型に採用された人かつ評定平均を満たす者に対しては、貴奨学生としての採用をする等があっても良いのではないか。
- ・この制度の対象者を、4年制大学進学者だけでなく、短期大学・専門学校進学者に対しても広げてほしい。
- ・大学に進学するケースもあるので、出願資格に、特別支援学校高等部を含めることを検討してほしい。
- ・募集期間が長いために、運動部の戦績により大学進学をすることになった生徒にも昨年度対応いただけた。今後も現状での募集を希望する。

【成績基準について】

- ・成績が4.0以上の基準を満たしても、高中所得世帯であつたりで、うまくマッチングしない。
- ・低所得世帯が前提なので、3.5以上が妥当。
- ・返還が免除になるのであれば、基準は厳しくてよいと思う。

【手続きについて】

- ・手続書類が、他の奨学金と比較して複雑。要求する個人情報が過度。簡素化を望む。
- ・学校を通して、所得課税証明書を添付して送付しているが、その後、収入の確認に関して必要な書類を請求する場合は、育英会から直接本人へ連絡してほしい。(専門性があり、仕事の効率を考慮してもその方が早く解決する。)
- ・ここ数年感じることは、家庭環境によっては出願書類すら揃えることが難しいということ。経済的に厳しくても、書類を揃えられないために出願を断念した生徒がいたのではないかと思う。

【周知について】

- ・今年度始まった高等学校奨学金の返済の一部免除制度のように保護者や生徒が関心を持ちやすいチラシを作成してほしい。また、日本学生支援機構の予約奨学金の配布から申請までがおおむね4月から6月であり、本奨学金もゴールデンウィークまでに保護者や生徒に申請の案内等をすれば、利用の検討などがしやすいと感じる。

【制度全体について】

- ・経済状況の厳しい家庭は、家庭での学習環境を整えることも難しい状況であることも考えられる。学びたい気持ちがある子供たちへ広くチャンスを与えられるような制度であってほしい。
- ・日本学生支援機構の給付は多いが、大学入学時奨学金も今後利用したいと思う。